



京都府立医科大学
NEWSLETTER

男女共同参画推進センター

2018.1
vol.10

男女共同参画推進センター「キャリア支援コンソーシアム“えん”」

● 男女共同参画推進センターでは、今年度4月に広報・啓発事業の企画・運営にご協力いただく「キャリア支援コンソーシアム“えん”」(CCえん)を立ち上げ、メンバーを学内外から広く募集しています。

メンバーになると

1. キャリア支援に関する最新の情報が得られます
2. 各種相談の窓口としてご利用いただけます
3. 講演会等への講師を紹介・派遣します

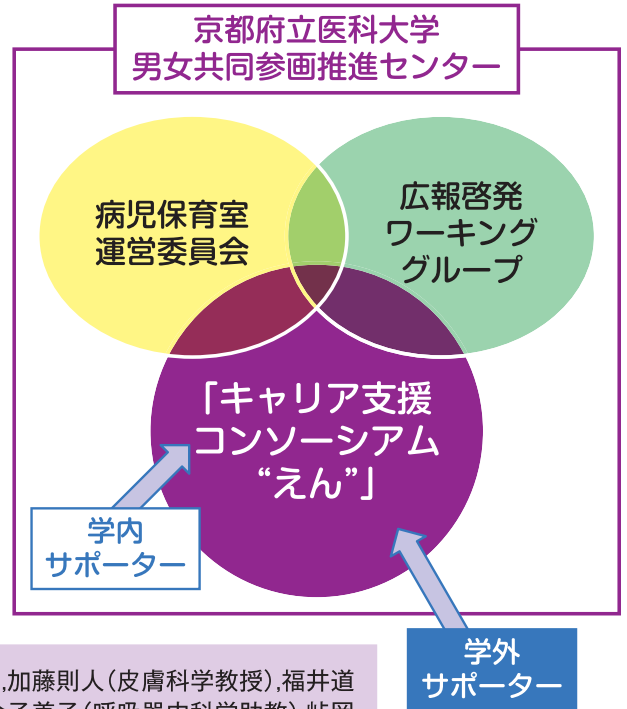
「CCえん」世話人(H29.4.1現在)

<学外>

竹村正子(竹村内科院長),武曾恵理(北野病院腎臓内科嘱託医・客員研究員),糸井恵(明治国際医療大学整形外科教授),田村秀子(田村秀子婦人科医院理事長),田邊智子(御池クリニックレディーストック長),平原直樹(京都第二赤十字病院泌尿器科副部長),佐藤礼子(厚生労働省大臣官房厚生科学課課長補佐) (卒業年次順)

<学内>

田口哲也(内分泌・乳腺外科学教授),高山浩一(呼吸器内科学教授),加藤則人(皮膚科学教授),福井道明(内分泌・代謝内科学教授),藤原敦子(泌尿器外科学学内講師),金子美子(呼吸器内科学助教),嵯岡理沙(皮膚科学講師),牛込恵美(内分泌・代謝内科学特任講師) (卒業年次順)



「キャリア支援コンソーシアム“えん”」キックオフ講演会・パネルディスカッションを開催します

テーマ：医療現場における働き方改革

日時：平成30年1月20日(土) 午後4時～

会場：京都府立医科大学 第一講義室 (基礎医学学舎 1階)

プログラム：

1. **総会** 午後4時～4時30分 オープニング挨拶・司会：竹中学長
2. **講演会** 午後4時30分～5時30分「女性医師支援と医療職の働き方改革」
座長：加藤 則人 (皮膚科学 教授)
講師：松永 佳世子 (藤田保健衛生大学医学部 アレルギー疾患対策医療学講座 教授)
3. **パネルディスカッション** 午後5時30分-6時30分
司会：矢部男女共同参画推進センター長
「本学医療職の働き方の現状と問題点について」10分 (竹中学長)

パネリスト

池田 栄人 (京都第一赤十字病院 病院長)
高山 浩一 (呼吸器内科学 教授)
濱口千鶴子 (女性センター 総括看護師長)
藤原 敦子 (泌尿器外科学 学内講師)
中務 克彦 (内分泌・乳腺外科学 助教)

追加発言 (松永講演会講師)

4. **情報交換会** 午後7時～

参加費
無料

情報交換会は
事前申込要・会費制

「トリアス祭特別企画講演会」

2017年11月4日(土) 10時~12時

京都府立医科大学 看護学学舎 1階 大講義室

第1部：講演 『医療職者における仕事と子育ての両立』

講師：中山 知倫（京都府立医科大学 視覚機能再生外科学 大学院生）

大藪 知香子（京都府立医科大学 内分泌・代謝内科学 大学院生）

田中 美奈子（京都府立医科大学附属病院 小児医療センター こども西 副看護師長）

第2部：座談会 司会：井上 萌・表 奈々子（本学 看護学科 2年生）



第1部：講演 『医療職者における仕事と子育ての両立』

まず、視覚機能再生外科学（眼科）の中山知倫先生に男性医師の立場からご講演いただきました。子育ての苦勞は想像以上に大変だが、子育てで得るものも大きい、医療職（医師）は外来や手術があり、突然の休みは取りにくいので、子どもが発熱したり台風など予測不能な事態の対応には、知識と準備が不可欠である。また、男性の育児参加に関して偏見や差別があるが、世間の目に惑わされずに、自分の信じる道を進んでいきたいとお話いただきました。上司や周囲の理解にも支えられながら育児に参加され、奥様が専門医を取得される際には全面的にバックアップされたお話が印象的でした。

次に、内分泌・代謝内科学の大藪知香子先生に女性医師の立場からお話いただきました。仕事と家庭生活のバランスに悩まれながら、しっかりと臨床も研究も継続し、臨月の時と出産後にYCA優秀賞を受賞されました。教室には多くの女性医師がおられますが、様々なケースがあるので型にはまらず、どれが正解というのはないということです。「良き医師」と「良き母」のどちらに優先順位をつけても、それぞれにメリット、デメリットがあり、ストレスへの対処法としては、ポジティブ思考、周りに協力を得るようにする、柔軟に考える、たまには自分にご褒美をあげる、小さな目標を持ちそれに向けてがんばる等を挙げていただきました。仕事と子育てどちらも大変だけれど、だからこそ非常におもしろくて魅力的で飽きることはなく、これからも前向きに感謝の気持ちを忘れずにがんばっていきたくと締めくくられました。

最後に、看護師として子育てをしながら仕事を続けてこられた小児医療センターこども西の田中美奈子副看護師長にお話いただきました。お子さまも大きくなられた今、ここまでどのように至ったのかご自身を振り返るチャンスとして今回の講演を引き受けていただきました。仕事と家庭を両立されている同僚からの意見として、1歳半までの時短勤務の期間をもう少し長くしてほしい、不規則勤務者同志の場合は夜勤を減らしてほしい、病児保育室の受け入れ人数を増員してほしいという希望を挙げられました。ご自身はご主人と連携を取られ、夜勤している方が子育てしやすかったそうです。男性は家のことを何もしなくてよいという親に育てられた世代なので、今思えばお互いが自立的に家庭生活を行うために協力していこうと目標を立ててきたように思うと話されました。他の二人の先生方と同様に優先順位を考えてコア業務に集中し、ご夫婦で一緒に考えて結婚生活20年間を乗り切り、家族が支えとなって仕事を続けられて26年経った今、看護の仕事が好きとやっと言えるようになったそうです。

第2部：座談会

「仕事と子育てを両立するためにお互いどのようなことに気を付けて協力しているか」について、中山先生はご夫婦とも同じ医局なのでお互いのことを理解しやすいが、お互いの立場をよく話し合っておくことが必要で、家事についてはやれる方がやれる時にやるということであまりうまくいっている、大藪先生はお互いのスケジュールを共有することが一番大事で、できる範囲で気配りができたらよい、田中先生は色々なことを情報共有しながらお互いサポートし合い、感謝の気持ちを伝え合っていると話いただきました。中山先生は高校の時に男子校だったけれども、これからは男も家事をする時代だという教育を受けられたそうで、結婚する前からそのように思われていたようです。



「後輩に向けてのメッセージ」として、中山先生からは家族の形は色々であり、答えはないし難しいと思うけれど、自分は間違っていないという信念を持って乗り切りたい；大藪先生は育児等がやりやすい環境になったのは先輩女性のおかげだし、私たちも将来よりよくなるようにがんばっていきたく；田中先生からは世の中そんな捨てたものじゃないし、たった一言で救われたりするので、そういう人たちに必ず出会える時があると信じて一緒にがんばっていきたく、というメッセージをいただきました。

「トリアス祭特別企画講演会」アンケートより

- 男性の視点、素直な意見は新鮮でした。世の中が今もなお、母が育てることが前提なので、父ならではの苦労のあることがわかりました。
- 女医さんの環境の厳しさが理解できました。
- これまでの子育てで経験をふまえて、(看護師の)時短が本院1.5歳まで～3歳くらいまでであった方が良いという意見、夜勤を活用して子育てできた経験、2交代制の方が子育てし易く休暇をとり易いという話が興味深かったです。
- 私も人生をふりかえってみようと思いました。先生方の話を聞いて同感を感じました。
- 病児保育の受入れ数の増加の希望が多いことをご理解いただきたい。病院全体が(勤務する人、患者さんとともに)子育てにやさしくなれると良いと思います。

病児保育室「こがも」



病児保育室「こがも」は、平成23年7月の開室から7年目となりました。

平成28年度の登録者は155名、登録児数240名、利用児数延べ653人にのぼり、年々利用者は増えています。

今後も、お子さんと親御さんが安心してご利用いただけるよう、利用されるお子さんの状態に対応できる無理のない体制を心がけてまいります。夜間・休日等にweb予約した場合は、速やかにお子さんの状態をEメールで送信いただきますよう、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

病児保育室「こがも」 URL <http://www.kpu-m.ac.jp/j/miyakomodel/careroom/riyou.html>
Eメール kodomo@koto.kpu-m.ac.jp TEL/FAX 075-251-5272

学内保育所「くすのき」

開 所 日：2015年12月10日

受入対象者：府立医科大学及び府立大学の教職員（有期雇用教職員含む）の子（生後57日目から3歳未満）

開所時間帯：月曜日から土曜日（祝日及び年末年始除く）
午前7時30分から午後6時30分

運 営 方 法：外部委託（株式会社アイグラン）

定 員：26名

* 問い合わせ先：京都府立医科大学 研究支援課

TEL：075-251-5208 E-mail：kikaku01@koto.kpu-m.ac.jp



4大学連携研究フォーラム



● 2017年11月14日に本学で開催された四大学連携研究フォーラムで、フューチャー・ステップ研究員ならびに研究支援員雇用事業利用者がポスター発表を行いました。

子宮内膜症における制御性T細胞の機能障害
京都府立医科大学大学院(医学研究科) 女性生涯医学 田中佑輝子

免疫応答 ↔ **免疫寛容**
↑ **Treg (CD4⁺Foxp3⁺)** ↓

Flow cytometry analysis

Zoal Treg (Foxp3⁺)
 (I) resting Treg (CD45RA⁺Foxp3⁺)
 (II) activated Treg (CD45RA⁺Foxp3⁺)
 (III) non-Treg (CD45RA⁺Foxp3⁻)

Figure 1
 (A) 子宮内膜症患者および非子宮内膜症患者の血液(PI), 腫瘍 necr (PI), 子宮内腫, 子宮内腫瘍性腫瘍を採取し, activated Tregの割合を解析した。
 (B) Tregが子宮内膜症に発症するかどうかを調べるために, Tregが一時的に減少するFoxp3⁺マウスを用いて子宮内膜症モデルマウスを作成した。
 この研究は倫理審査委員会の承認及び、各患者に対してインフォームドコンセントを受けている状態である。

Figure 2
 子宮内膜症におけるActivated Tregの割合を評価する。
 マウスモデルを用いて、子宮内膜症におけるTregの役割を明らかにする。

Figure 3
 子宮内膜症患者および非子宮内膜症患者の血液(PI), 腫瘍 necr (PI), 子宮内腫, 子宮内腫瘍性腫瘍を採取し, activated Tregの割合を解析した。
 また, Tregが子宮内膜症に発症するかどうかを調べるために, Tregが一時的に減少するFoxp3⁺マウスを用いて子宮内膜症モデルマウスを作成した。
 この研究は倫理審査委員会の承認及び、各患者に対してインフォームドコンセントを受けている状態である。

Figure 4
 子宮内膜症におけるActivated Tregの割合を評価する。
 マウスモデルを用いて、子宮内膜症におけるTregの役割を明らかにする。

女性生涯医学 病院助教 田中 佑輝子
科学雑誌
Journal of Clinical Endocrinology and Metabolism
(米国内分泌学会雑誌)
[2017年9月6日(水) オンライン速報版掲載]

● 新副センター長のご挨拶

看護学科 地域看護学 教授 星野 明子



副センター長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

本センターによる研究者支援制度、学内保育、病児保育の実現は、本学の様々な職種や異なる雇用形態の人々の働き方改革を応援する制度整備の一翼を担っています。

女性の労働参加には、性別役割分担意識等の意識改革が課題（平成28年度版働く女性の实情）と指摘されています。また、若者世代は男女とも「こうあるべき」姿に縛られて、理想像を描きつつ窮屈な思いを持つ者が多いと聞きます。慣習にとられない、本学における男女共同参画の実現に向けて、私も共に歩みます。

寄附のお願い

平成26年6月に本学男女共同参画推進センター寄附金の募集を開始し、皆さまにご協力をお願いいたしましたところ、平成26年度（平成26年6月～平成27年3月）は個人46名、3医学教室、および15法人から3,060,000円、平成27年度には個人10名、1医学教室、および8法人から980,000円、平成28年度は個人4名、9法人から930,000円のご寄附をいただきました。

皆さまからいただいた寄附金で、病児保育室見守りシステムの設置、講演会・ニュースレター発行の広報啓発事業を実施させていただきました。

男女共同参画推進センターでは、今後とも長期展望を見据えた事業計画のもと、性別にかかわらず医師および研究者を支援していきたいと考えています。

引き続き、皆さまのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

寄附のお申込み、詳細については、下記HPをご覧ください。

<http://www.kpu-m.ac.jp/j/miyakomodel/activity/donation.html>



寄附金に対する免税措置について

この寄附金は、所得税法、法人税法による税制上の優遇措置を受けることができます。

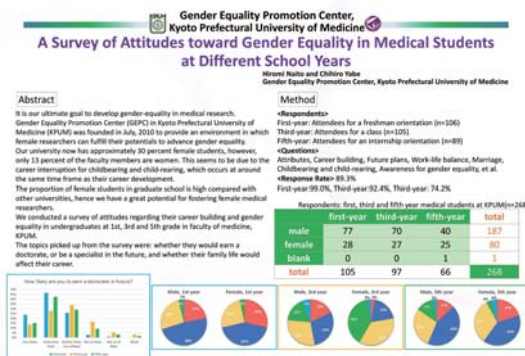
法人の場合

法人税法により、全額を損金扱いとすることが可能です。

個人の場合

所得税法により、総所得金額から寄附金の額を控除することができ、税金の対象となる額が軽減できます。

個人住民税（京都府、京都市にお住まいの方）についても控除の対象となっております。



- 公益財団法人京都府医学振興会からの支援（公益財団法人京都府医学振興会女性医師支援事業）により、研究支援員雇用事業を実施し、今年度は5名が選考されました。
- 平成29年度 フューチャー・ステップ研究員（非常勤短時間勤務制度）3名が選考されました。
- 2017年5月25・26日に一橋講堂で開催されたGender Summit 10のポスターセッションで、内藤コーディネーターが“A Survey of Attitudes toward Gender Equality in Medical Students at Different School Years”と題して発表いたしました。

お知らせ

- 「女性研究者等支援相談窓口」を開設しています。ぜひ、ご活用ください。
 - 休養・授乳・搾乳等のための女子休養室がございますので、ご利用ください。
- 詳しくはHPをご覧ください。

男女共同参画推進センター

〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町465
 電話（FAX）：075-251-5165
 Eメール：miyako@koto.kpu-m.ac.jp
 URL：http://www.kpu-m.ac.jp/j/miyakomodel